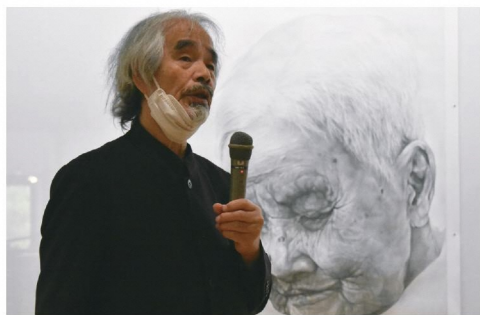


第1回

2025. 4. 26 [sat] 14:00~16:00

小林ハルさんとの出逢い

講師: 木下晋氏(美術家 金沢美術工芸大学名誉客員教授)



Susumu KINOSHITA

鉛筆画の鬼才として国内外で活躍されている木下晋氏。40年ほど前に最後の贅女と言われた小林ハルさんに出逢い、その後20年間、ハルさんが終の棲家とした「胎内やすらぎの家」へ通い、ハルさんの奥深い人生の内面を描くために最もふさわしい手段が鉛筆だと確信し、独自の鉛筆画法を深めていきます。また、氏は元ハンセン病患者の詩人桜井哲夫さんや、現在はパーキンソン病を患う妻を描き続けています。

第2回

2025. 7. 19 [sat] 10:30~12:00

感じる心。それを形にする力

講師: 大平實氏(彫刻家 ロサンゼルス在住)・松岡圭介氏(彫刻家 東北芸術工科大学大学院修了)

現在ロサンゼルスを拠点に世界的に活躍する胎内市出身の彫刻家大平實氏は、自然の美を探求しながら、様々な素材を情熱的、直感的な感覚で作品につくりあげています。彫刻家松岡圭介氏はヒトという種が失った超常的な力、潜在的な生命力を彫刻で表しています。素材の深求を深めるためにアメリカの大平氏の元で制作を行い氏から影響を受けています。



Minoru OHIRA

Keisuke MATSUOKA

第3回

2025. 8. 2 [sat] 13:30~15:30

アイヌとの出会い、そして縄文へ

講師: 中野雅友氏(洋画家 光風会評議員 日展会友 県展参与)



Masatomo NAKANO

◆ワークショップ

こと魂や縄文をイメージした絵葉書、絵手紙を描こう!

14:30~15:30

中野氏の代名詞といえる「アイヌ・ユーカラ」シリーズ。アイヌとの出会いは父親と函館で暮らした50年程前といい、その後長きにわたり一途にアイヌの世界を描き続けてこられました。また、「芸術は手探りで進む以外何ひとつ可能でない世界」というルノアールの言葉を胸に、地道な素描と表現の研究により彼独自の作風を作りあげました。そして50年ぶりに氏の興味を独占しているものがある。それは、アイヌ文化の礎をなす『縄文文化』。唯一無二の存在を手探りする氏に迫ります。



当館がこれまでの企画展で紹介した市ゆかりの作家を講師にお迎えし、講演いただきます。

胎内市美術館開館10周年記念連続講演会

- ・定員 各回40名
- ・参加費 無料(ただし入館料必要)
- ・申し込み方法 当日先着順(予約可)
- ・問い合わせ先 胎内市美術館



〒957-8501 胎内市下赤谷387-15(道の駅胎内エリア) TEL 0254-47-2288 FAX 0254-47-2281

胎内市美術館



新潟県胎内市下赤谷387-15(道の駅胎内エリア) TEL 0254-47-2288 FAX 0254-47-2281
 電 車: JR羽越線中条駅よりタクシーで10分 自動車: 日本海東北自動車道中条I.Cより車で15分
 【開館時間】9:30~17:00 【休館日】月曜日【観覧料】大人300円・小中学生150円
 障がい者手帳などをお持ちの方は入館料半額MIRAIO IDご利用いただけます